

鎌ヶ谷市多文化共生推進会議 第4回会議 会議録

日 時 平成28年3月24日(木) 10時～11時45分
場 所 鎌ヶ谷市役所3階301会議室
出席委員 信夫稔委員長、品川洋之助副委員長、鷹野悦子委員、
井手勝則委員、海老原メリジェーン委員
欠席委員 高橋寛委員、鈴木吉久委員
(敬称略)
事務局 大塚企画政策室長、仲村主任主事
記 録 仲村
傍 聴 者 なし

(1)「施策の柱2 国際化の意識づくり」についての意見交換

(事務局)

それでは、鎌ヶ谷市多文化共生推進会議第4回会議を開催する。進行の程を信夫委員長にお願いしたい。

(委員長)

本日は、鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画に掲げられている「施策の柱2 国際化の意識づくり」の中の「①啓発の推進」、「②教育・生涯学習の推進」についての意見交換を行いたい。

それでは、早速、「施策の柱2 国際化の意識づくり」についての意見交換を行いたい。

始めに、各委員より、記載いただいた意見交換シートの内容についての説明をお願いしたい。

まずは、「①啓発の推進」についての意見交換を行う。

(委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

・平和への取組

残念ながら、鎌ヶ谷市としての平和への取組が全く見えない。今後は市民、民間企業、団体、グループを取り込んだ活動をどうやってスタートさせるかが課題。

・人権尊重の意識づくりの推進

人権の解釈には国によって相違があるかもしれないので、この項は答えにくい。むしろ、人間尊重をベースにした方が良い。

②アイデア

・平和への取組

平和活動の理念を広くPRし、市民による平和運動の重要性を喚起する。また、民間企業や団体・グループを取り込んだ活動を早期に立ち上げる。

- ・人権尊重の意識づくりの推進
人間尊重を視点とした学習講座を多く開設し、在住外国人や残留邦人との交流を促進し、その中で議論を深める。
- ③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること
 - ・平和への取組
 - (1) 平和運動への支援・戦争体験の継承（含講演会、ビデオ上映）
 - (2) 外国人との交流促進と「平和」についての意見交換
 - ・人権尊重の意識づくりの推進
在住外国人、残留邦人との交流を介した機会を多く作り、人権・人道・人間尊重の啓発と普及を図る。
- ④その他
 - ・人権尊重の意識づくりの推進
現在の企画・イベントを見直し、人権・人道・人間尊重に触れる内容を加味して活動する。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

～ 特に意見なし。～

(委員)

意見交換シートの内容について説明。

- ①現状と課題
今は世界中が揺れ動いて安定していない状態のような気がする。戦争や内乱、テロのせいで犠牲になっている人達が大勢いる。自国を捨て他国に逃げるにしても入れてもらえない。外国人を見ると用心してしまう、お互いに信用できない現状。日本に、また鎌ヶ谷に来ることはないと思うが、外国人というだけで色眼鏡で見ないようにしなければと思う。
- ②アイデア
 - ・海外の紛争、戦争体験などの学習できる機会を作る。
 - ・先ず草の根運動として、お互いを信用できる関係を築く。
 - ・人権週間の中に多文化共生も組み込む。
- ③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること
 - ・一声運動挨拶
 - ・目があったらスマイル
 - ・中学生の作文（人権関係）

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(委員)

今回、「平和への取組」や「人権尊重の意識づくりの推進」について、委員に意見を求めた趣旨を伺いたい。

(事務局)

鎌ケ谷市第二次多文化共生推進計画に掲げられた取組みを1つずつ検討していく本会議の趣旨に基づきご意見を伺っている。

(委員)

大局的な視点で意見を述べれば良いのか、自分達にもできる取組みといった視点で意見を述べれば良いのか、どちらなのか。

(事務局)

両方の側面からのご意見をお願いしたい。

(委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

現状の平和がどうして存在しているのかを認識すべき。戦後、米国の傘の下、経済だけを追求してきた日本において、全てが自分たちで勝ち取ったかと勘違いしている平和ボケとなっている。変わりゆく国際情勢にマッチした真の意味の平和に向けて、日本人自身がしっかりと考える時である。人権尊重は、弱者養護、保護できるような社会基盤を更にしっかりとすることが必要。幼児虐待、学校のいじめ、社会のいじめは更に拡大するであろうし、出来る事から、小さい芽でも対処できるアンテナと対処策を持つべき。

②アイデア

単に海外紛争とか、終戦記念日とかではなく、どうして争いや人権無視などが起きるか、原因を究明するイベントを開催する。個人ではどうにもできない要素を分析理解して、空回りではない実質的な啓蒙活動を行う。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

市内の組織ごとに共通のテーマを掲げて、組織ごとに取り組む。遠いゴールであるが、10年、20年掛けて地道にやる。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(副委員長)

井手委員の考え方は自分の考え方に通じる所がある。

(委員長)

鈴木委員は本日ご欠席であるが、事前にご意見を伺っているので、事務局から代読いただきたい。

(事務局)

事前にいただいた下記ご意見を代読。

①現状と課題

・現状

昨年度から平和教育派遣事業（長崎に各中学校2名派遣）を行っている。いじめ対策基本計画を各学校で作成している。

・課題

上記の取組が多文化共生との関連が明確でない。

②アイデア

- ・市のホームページ、広報かまがやへの掲載を増やす。
- ・各小中学校の平和教育の取組の充実を図る。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・校長会として、各学校での平和教育や人権教育の取組を充実させる。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(委員)

長崎に各中学校から2名の派遣を行っているのは初耳だった。

(副委員長)

中学生の頃から、このような平和教育の機会を設けることは大切だと思う。

(委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

- ・難しいテーマであり、鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画に掲げている施策メニュー（例）にある事柄を実施すれば十分だと思う。ただし、これらを実施するには、市役所の予算や実施体制が相当必要になると思う。
- ・市民が外国人と接する時には、人種や出身国・地域、民族や宗教などによる偏見や差別的な考えを持たず、共に相手を理解し、尊重する態度で接することが大切で、そうすれば、自然に平和や人権が尊重されていくものと思われる。特に、人種、民族や宗教の違いなどで、各国（人）が様々な状況にあつて、紛争さえもある中で、我々も慎重に対応していかなければならないと思う。そこで、施策メニュー（例）にある海外の紛争や平和運動などを学習することなどについては、互いに相手の国や人を非難し合い、政治的、外交的な問題をもたらす危険性もあるので、行政（市役所）としてはかなり慎重さを必要とするのではないだろうか。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(委員長)

人種や民族、宗教の違いは非常に難しい問題である。

(委員)

人種や民族、宗教の違いをどう啓蒙していくかが重要である。

(委員)

子ども達は初めは外国人というだけで、色眼鏡で見てしまう部分があるが、ALT等の外国人の方に慣れていると、そのようなことは全くない。

教育がいかに重要かということが分かる。

(副委員長)

意見交換シートの内容について説明（事前に配布した資料も併せて説明）。

①現状と課題

- (1) 平和への取り組み：我が国の国際平和へ貢献の取り組みとして、開発途上国に対する資金・技術援助がある。即ち JICA(国際協力機構)による ODA(政府開発援助)事業である。各援助プロジェクト、青年海外ボランティア、シニア海外ボランティアを派遣し、具体的に技術援助を通じて地域の発展を図る。このような援助を持続的かつ長期にわたって国際貢献による友好関係を維持することにより、我が国の安全保障に繋げる。
- (2) 人権尊重の意識づくりの推進：基本的人権の尊重は国の内外を問わず守るべき理念である。特に弱者である女性・児童に対する暴力、虐待、差別、経済収奪等は許せない。家庭内暴力、幼児虐待など表面に出にくい事案も地域の問題にして、早期発見し問題解決を図るべきである。

②アイデア

- (1) 教育現場を含め、あらゆる機会を通じ「出前講座」などのセミナーを開催し、国際平和、国際貢献、国際事情等につき啓発に努める。
- (2) 成熟社会としては、当然人権尊重の意識は隅々まで行きわたるべきである。地域の目が参加することで、人権侵害の抑止効果が期待される。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること
関係団体の PR 活動・イベントに協力・参加する。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(委員)

国同士ではなく、個人同士の付き合いは良好なことが多く普遍的なので、平和への取組は国レベルの問題だろう。

国際情勢等の背景を理解した上で平和を考えることが重要である。

(副委員長)

子ども達への語学ボランティア等、できる方ができる範囲で取り組んでいけば良いと思う。

(委員長)

次に、「②教育・生涯学習の推進」についての意見交換を行う。

(委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

在留外国人が1,000名余りと少なく、且つその大部分は中国人、韓国人、ベトナム人で構成されている現状を直視すると、教育の充実と言うよりむしろ職場の充実が大きな課題となっているのではないだろうか。安心して働ける場所が確保出来れば、当然のことながら教育や学習の領域にも入ってくるものと思われる。

②アイデア

市内在留外国人の情報を可能な範囲で整理をし直し、ドキュメント配布を始

め、電子メール配信の精度を上げる必要がある。これには行政の理解と協力が不可欠であるが、個人情報保護法に抵触しない範囲を模索しながら進める。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

在留外国人へのアクセスは当面ピンポイントで行い、情報の確認をしていくと同時に、企画・イベント（含む教育）の総ては人数に依存することなく定期的に開設・開講し、外国人の参加を促す。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(副委員長)

基本的に外国人の方には「情報の孤立」がリスクとして存在する。

したがって、地域での信頼関係を大切に、互いに情報交換をして暮らしていくことが最も重要である。

(委員)

教育の充実と言うよりむしろ、職場の充実が大きな課題となっているとのことだが、鎌ヶ谷で働いている外国人の方は非常に少ないと思う。

(委員)

在住外国人の方の内、何人が鎌ヶ谷で働いているかは市内の各企業にアンケート調査をすればわかると思う。

(委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

市内の人達が多文化共生の言葉を理解していない人が多いように感じる。日本語に関しては外国人が学習する場合はボランティアにゆだねている状況ではないかと思う。

②アイデア

多文化共生についてのイベントを行う。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・各公民館で行っているセミナー、生涯大学などで紹介してもらう。
- ・多文化共生について、学校の授業で紹介してもらう。
- ・センターを相互学習希望の登録の場とする。
- ・シンポジウムの形で、在住の外国人にパネラーになってもらう。
- ・主婦を対象に、英語の無料講習会を開催する（留学生受け入れ環境の充実）。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

～ 特に意見なし。～

(委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

市民レベルでは、多文化共生という意識が浸透していない。行政・官公庁・民間の協力体制が低いと思われる。

②アイデア

共通の課題を明確化して、組織ごとで出来る事の役割分担をする。(例)商工会は、2016年秋の鎌ケ谷市産業フェスティバルにおいて多文化コーナーを設置して、国ごとのブース、組織ごとのブースを設けて、市内在住の外国人と市民との交流の場を設ける。商工会は、無料の招待ブースを提供して、全面的に協力する。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

官公庁サイドでは、在鎌ケ谷の外国人、外国人組織への呼びかけ、勧誘に関する調整を行い、一人でも多くの在鎌ケ谷の外国人のイベントへの参加をもって、市民とのふれあいを持った多文化共生社会を作る支援をお願いしたい。

(信夫委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(委員)

本会議で話が上がった内容は、どう具現化していくのか？

(事務局)

多文化共生推進連絡協議会に情報提供をするなどして、出来る事から一つずつ具現化していくしかないと考える。

今年度は多文化共生推進センターの認知度を高めた方が良かったといったご意見を受け、センターの認知度の向上と通訳ボランティア制度の魅力アップを兼ね、プラザカフェを6回実施した。

(委員)

商工会では、2016年秋の鎌ケ谷市産業フェスティバルにおいて、ビジネス交流会を開催するので、例えば、出展ブースに多文化共生のコーナーを設置することも可能である。

また、外国人の方が外国人登録をした際に、在留外国人協会を紹介した上で、例えば、外国人クラブの様な組織を作り、情報交換をしていくといった仕組み作りも必要だと思う。

(委員長)

鈴木委員は本日ご欠席であるが、事前にご意見を伺っているので、事務局から代読いただきたい。

(事務局)

事前にいただいた下記ご意見を代読。

①現状と課題

・現状

語学ボランティアを各学校に派遣している。

定期テストの問題にふりがなを振る。

・課題

人材確保と調整

②アイデア

- ・ALTの増置を求める。
- ・英語スピーチコンテストの充実を図る。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

- ・各学校でも努力することが必要だが、教育委員会へ働きかける。
- ・ALTの有効的な活用を模索する。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(副委員長)

ALTの有効的な活用とはどういうことだろうか。

(委員)

例えば、産業フェスティバルにALTに参加してもらう等、有効的な方法はたくさんある。

(委員)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

難しいテーマであり、鎌ヶ谷市第二次多文化共生推進計画に掲げている施策メニュー（例）にある事柄を実施すれば十分だと思う。ただし、これらを実施するには、市役所の予算や実施体制が相当必要になると思う。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

～ 特に意見なし。～

(副委員長)

意見交換シートの内容について説明。

①現状と課題

多文化共生に関する教育の充実：

外国人に対する日本語教育及び日本人に対しての外国語教育は双方向になされることが必要である。

外国人住民への学習の機会の提供：

日本語ボランティアの活動により幅広い効果が期待できる。

留学生の受け入れ環境の充実：

鎌ヶ谷市の位置は都心及び成田空港へのアクセスがよく、緑豊かな環境にある。住民の意識・意欲次第では住環境上の良さを生かした受け入れが可能である。

②アイデア

お互いの子弟を留学させ、幅広い視野を持つ人材を育てる観点から、異文化

に興味を持ち寛大に外国人を受け入れる雰囲気作りが必要である。

③アイデアの具体化に向けて団体・個人ができること

KIFA、国際化に興味を持つ個人との情報交換が必要である。情報を共有し具体化を図る。

(委員長)

それでは、ご意見がある方はお願いしたい。

(委員)

姉妹都市についても、例えば東南アジア等の都市との新たな姉妹都市提携を模索していく時期が来ていると思う。

(委員長)

全体を通して何かご意見はあるか。

～ 特に意見なし。～

(2) その他

(委員長)

最後に、事務局より、次回までのスケジュール等についての説明をお願いしたい。

(事務局)

次回会議は夏頃を予定しており、今回は本日配布させていただいた資料の「施策の柱3 暮らしやすい環境づくり」の中の「①行政サービスの充実」、「②情報の提供」、「③情報の収集」についての意見交換シートを事前に作成していただき、事務局で取りまとめたものを基に議論を進めていきたいと考えている。

(委員長)

それでは、本日の会議はこれで終了とする。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成28年4月22日

氏名

井手 勝則

氏名

海老原 メリジェーン
